

平成27年度 施策評価表

作成年月日：平成28年9月1日

課・グループ名

都市整備課土木グループ
まちづくり課企画情報グループ

施策名	③広域交通網の整備 5-4-③		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	5. 安心して楽しく暮らせる快適な生活環境のまちづくり	(4) 安全、安心、便利な交通対策の推進	③広域交通網の整備
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ●道央圏連絡道路の早期完成のため、関係自治体からなる期成会による要望活動を行います。 ●計画的な維持補修により安全な交通を確保し、住民の生活環境の向上を図ります。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ●道央圏連絡道路「中樹林道路」「長沼南幌道路」の事業が進められています。 ●町道舗装道路の経年劣化により、道路の段差、舗装道路のひび割れが進んでいます。また、橋梁の老朽化が進んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道央圏連絡道路の早期完成に向け、事業を推進する必要があります。 ●老朽化した舗装道路並びに橋梁の補修を計画的に進める必要があります。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況							
① 成果 指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名		数値化	
				成果指標 (総合計画・施策評価)		可 能	
						不 可 能	
						○ 未計測	
				代替指標 ※成果指標がない場合		指標の設定	
			※特定のデータ化等が困難であるため指標なし		可 能 ○ 不 可 能		
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
② 指標 データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H24	H25	H26	H27	H28	
	目 標						
	実 績						
達成率	%						
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点	
③施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)			施策の 達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・道央圏連絡道路の早期完成を目指し引き続き、国に要望活動を行う。 ・橋梁、道路の点検、修繕を計画的、継続的に実施する。 	
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)					
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)			B		
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)					

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への 貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業 番号	事務事業名	種 類	所 管 課 名	成 果 指 標	評価年度(H27)		事 務 事 業 の 内 容	必 要 性	妥 当 性	事 務 事 業 評 価 結 果 (方 向 性)		事業費(千円)	
					目 標	単 位						H27実績	H28予算
1	【新規】 橋梁長寿命化事業	(4)	土 木 G	・長寿命化が図られた橋梁数 ・安全が確認された橋梁数 (H28より)			法で定められた点検を行うとともに長寿命化修繕計画に基づき、修繕及び架替えを行う。	I	I	1 現状のまま継続	0 3,000	普通	
2													
3													
4													
5													

年度別施策全体の事業費合計(千円)	
H27事業費	0
H28予 算	3,000

②H28に実施した新規事務事業					
	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H28予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果		理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の 妥当性	計画的な修繕などが必要である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)		
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	A	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)		

4. 今後の方向性 ※外部評価 (行政評価委員会)								
①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。			事業の 方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号			平成29年度以降 の予算の方向性
	A							
	B						拡大	
	C	1					〇 維持	
	D						縮小	